

国際大会調査報告書

海外におけるスポーツ都市戦略：社会的価値の実現に資する取り組み

Birmingham 2022 Commonwealth Games: Birmingham, Great Britain

作成: 独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部 国際戦略課

協力: UK スポーツ

本レポートは、日本スポーツ振興センター(JSC)が、7月28日～8月8日に行われた「Birmingham 2022 Commonwealth Games」の視察及び関係者などからのヒヤリング情報に基づき作成したものである。

キーワード:

- ・地域活性化・地域コミュニティとのつながり
- ・新たな大会運営モデル: パラ競技との統合型イベント
- ・新たなビジネス機会の創出
- ・持続可能な国際大会
- ・e スポーツの発展

コモンウェルスゲームズとは

コモンウェルスゲームズはイギリス連邦に属する国と地域が参加する国際総合競技大会である。4年に一度開催され、「イギリス連邦のオリンピック」とも言われている。開催都市はイギリス連邦に特徴的な競技が含まれた16種目の中核競技を実施しなければならない。中核競技のほか、開催都市は選択競技をコモンウェルスゲームズ連盟が定めるリストから選択して実施することができる。

また、IPCの協力を得て、4種目のパラ競技も中核競技として定められている。開催都市は、この他にもパラ競技をコモンウェルスゲームズ連盟が定めるリストから選択して実施することができる。パラリンピックやその他の主要な国際競技大会とは異なり、コモンウェルスゲームズにおいてはパラ競技が大会のなかで統合されているのが特徴である。¹⁾

次回のコモンウェルスゲームズは、2026年3月にオーストラリアのビクトリア州が舞台となる予定である。

第22回コモンウェルスゲームズバーミンガム

開催概要

大会名: BIRMINGHAM 2022 COMMONWEALTH GAMES

主催: コモンウェルスゲームズ連盟

開催期間: 2022年7月28日～8月8日(11日間)

開催地: イギリス・ウェストミッドランズ州・バーミンガム市

大会 HP: <https://www.birmingham2022.com/>

参加国・地域数: 72

競技会場数: 15(95%は既存施設の活用)

実施競技: 20(パラ競技: 8)

新競技: 4(女子クリケット T20、3人制バスケットボール、3人制車いすバスケットボール、パラ卓球)

男女混合実施種目数: 10

メダル数: 136

選手・役員数: 6,500

大会運営関係者数: 35,000

ボランティア数: 15,000

観客総数: 150万人以上

経済効果: 10億ポンド(試算)

ストリーミング数(BBC): 11日間で5,710万回(大会新記録)

視聴者数(BBC): 合計2,860万人

実施競技の特徴:

女性のメダル獲得数は男性よりも多かったこと、パラ競技のプログラムは史上最大の8つの競技が行われたことが2022年大会の大きな特徴である。また、今大会ではオリンピック競技のほか、イギリス連邦で比較的盛んな競技であるクリケット、ローンボウルズ、ネットボール、スカッシュも実施された。クリケットやスカッシュは2028年ロサンゼルス大会の追加種目候補に選ばれている。また、ネットボールは、2032年ブリスベン大会の追加種目入りを目指している。今後これらの競技の動向に世界的に注目が集まり、ロサンゼルス大会でのオリンピック種目に採用されれば、競技の振興の追い風となることが期待される。

実施競技一覧:²⁾

競技	実施種目
陸上競技	陸上、パラ陸上
水泳	競泳、パラ水泳、飛び込み
バドミントン	バドミントン

バスケットボール	3 人制バスケットボール、3 人制車いすバスケットボール
バレーボール	ビーチバレーボール
ボクシング	ボクシング
クリケット	クリケット T20
自転車	マウンテンバイク、ロードレース、タイムトライアル、トラック、パラトラック
体操	器械体操、新体操
ホッケー	ホッケー
柔道	柔道
ローンボウルズ	ローンボウルズ、パラローンボウルズ
ネットボール	ネットボール
パラパワーリフティング	パラパワーリフティング
ラグビー	7人制ラグビー
スカッシュ	スカッシュ
卓球	卓球、パラ卓球
トライアスロン	トライアスロン、パラトライアスロン
ウェイトリフティング	ウェイトリフティング
レスリング	レスリング



写真提供: birmingham2022

スコットランドの選手(75 歳)は、パラボウル混合ペア決勝戦で優勝し、コモンウェルスゲーム史上最高齢の金メダリストとなった。

イギリス発祥の競技紹介(一部)

・ クリケット

クリケットは、イギリス、オーストラリア、インド、南アフリカ、西インド諸島などのイギリス連邦諸国や地域を中心に大人気で、世界の競技人口はサッカーに次いで第 2 位といわれる。特にインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュなどの南アジア諸国では、圧倒的な人気を誇る。正式な試合は、芝生のグラウンドで行われる。国際規格では直径約 120 メートルの円形で、野球場よりも大きい。大会のレベルや形式、競技者の年齢や性別によって大きさが縮小される。バーミンガム大会では、女子種目限定で両チームともに 1 イニングのみ、20 オーバー(120 球)限定のルールが採用された。会場は、バーミンガム市内のエジバストンにあるエジバストン・クリケット競技場を使用した。2028 年ロサンゼルスオリンピックの追加種目候補のひとつ。³⁾



写真提供: birmingham2022

クリケット会場: 準決勝戦(インド対イングランド)

・ スカッシュ

四方を壁で囲まれたコートの中で、2 名(ダブルスは 4 名)が壁を介して高速のボールを打ち合うスポーツ。スカッシュは 185 の国で

2022.9.30

バーミンガム大会における主な取り組み・事例

パラ競技との統合型イベント: 共生社会の実現

史上最大のパラ競技プログラムのなかでも、陸上競技、自転車(トラック)、3 人制車いすバスケットボール、ローンボウルズ、水泳、卓球、トライアスロンでは、パラ競技を含めた一体的な競技運営のもと、滞りなく競技進行が行われていた。

また、イギリス発祥のローンボウルズは、芝生の上で「ボウル」と呼ばれる偏心球を目標物にどれだけ近づけられるかを競うスポーツである。高齢者や障害者に人気のあるスポーツであり健康増進にもつながる。世界的に見るとローンボウルズは主



卓球、パラ卓球のチケット

にイギリス連邦の国や地域を中心に広がり、競技人口は世界で 200 万人以上(推定)と言われる。男女混合競技の積極的な導入やオリ・パラを一体に捉える考え方は、障害や性別、人種、年齢などの多様性を受け入れて積極的な社会参加を促す近年の社会の価値観と重なる。

約 2,000 万人がプレーしており、年齢や性別を問わず、用具も少ないためコストがあまりかからず、コートがあればすぐに楽しめるのが特徴である。スピード感と瞬発力が競技の見どころの一つであるが、プレーヤーそれぞれの力量に合ったスピードで楽しめるので、子供から年配者まで、生涯スポーツとして続けられる利点もある。バーミンガム大会では、バーミンガム大学の既存体育館に四方がガラスに囲まれた移動式のコートを設置し、競技会場として使用した。2028 年ロサンゼルスオリンピックの追加種目候補のひとつ。⁴⁾



スカッシュ会場

既存施設や地域資源の有効活用

15 の競技会場がバーミンガム市とウェストミッドランズ州にあり、自転車のトラックイベントのみロンドンにあるリーバレー・ベロパークで開催された。新規恒久施設は水泳競技の会場となったサンドウェル・アクアティックセンターのみで、それ以外の競技会場は、既存施設(会場全体の 95%)を最大限に活用し、ビーチバレーボール、3 人制バスケットボール、3 人制車いすバスケットボールの競技会場(スミスフィールドアリーナ)はバーミンガム市内中心部に設置されたファンゾーンに隣接して仮設で整備された。

当初の計画では、大会後のレガシーを見据え、市街地再開発事業としてペリー・バー地区に単一の選手村を建設する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴う整備工事の遅延や資材高騰による公共事業の予算超過により、計画の変更を余儀なくされた。大会組織委員会は、主要なステークホルダーやパートナーと協議を重ねた結果、大会開催リスク軽減の視点から競技会場近くにあるバーミンガム大学、ウォーリック大学、NEC ホテルキャンパスの 3 つの既存施設に分散して選手村を設置することとした。大会に参加する国・地域も既存施設の活用を支持しており、このようなコスト削減の取り組みは今後のコモンウェルスゲームズの選手村計画に新たなモデルを示したと言える。

また、バーミンガム大学は大会のオフィシャルパートナーとして宿泊施設の他、ホッケーとスカッシュの試合会場、水泳と陸上競技の公式練習会場を提供した。大会に関わるキャンパス施設を活用した付随の会議やイベントの開催には、100 人以上の職員と学生が大会ボランティアとして参加、450 人以上の学生が大会運営のためにキャンパス内で雇用された。^{5, 6, 7)}

社会的インパクト評価・市民とのエンゲージメント

大会期間中、バーミンガム市中心部の象徴的な 2 つの地区で、交流イベントが開催された。一つはバーミンガム中心部に位置するビクトリアスクエアで、日頃から様々なイベントが既に行われている市民の憩いの場である。もう一つのスミスフィールドは、現在再開発が行われている地域に設けられた仮設の広場で、ビーチバレーボール、3 人制バスケットボール、3 人制車いすバスケットボールの競技会場に隣接していた。これらの会場には無料で誰もがアクセスすることができ、ライブパフォーマンスやコンサート、大型スクリーンでのスポーツ観戦、飲食・物品販売、競技体験などもあり、バーミンガム市民の憩いの場となっていた。また、市内ではボランティアが積極的に声をかけ、丁寧に案内してくれる姿や多くの案内看板が設置されており、会場間の移動がスムーズに行えた。会場に行かなくても、街全体には国内外から訪れる観客を大会ロゴなどによる装飾や大型ポスターで歓迎し、大会の祝祭の雰囲気を盛り上げていた。



ビクトリアスクエアの様子

また、今大会はコモンウェルスゲームズ連盟が開催による社会的価値の影響と利益を組み入れ、測定し、評価する初の大会であり、今後の開催都市に新しい大会運営モデルを示すものと言える。そのレガシーの具体例は以下の通り。^{8, 9)}

- ・アレクサンダー・スタジアムとサンドウェル・アクアティクスセンターのレガシー施設は、大会後にコミュニティ施設として市民へ開放
- ・イギリス全土の関連企業に利益をもたらす調達費用:約 3 億 5 千万ポンド
- ・大会を通じた雇用の機会創出:35,000 人
- ・15,000 人以上のボランティアがトレーニングを受講、将来の大会でも持続可能なスキルの習得。組織委員会は他関係組織とも連携しながら、雇用能力の開発に向けたフレームワークの提供
- ・スポーツイングランドによる 400 万ポンドの基金を活用した「コモンウェルス・アクティブ・コミュニティ」は、大会のプログラムを通して定期的な身体活動に取り組むことを支援
- ・イギリス全体の文化フェスティバル展開事業の推進と芸術・文化分野の長期的な成長を政府を初めとする様々な団体からの寄付金を元に組織委員会が支援
- ・バーミンガム市によるコモンウェルスゲームズ・コミュニティ基金(600 万ポンド)の設立
- ・大会に関する教育推進のための教材を開発し、イギリスおよびイギリス連邦全域の子供たちに提供、学習プログラムを通じて 100 万人以上の子供たちや若者と直接関わる機会の創出
- ・インバウンド事業(ビジネスや観光)創出に向けた投資:2,390 万ポンド



交流広場での 3 人制バスケットボール体験

SDGs に向けた取り組みや事例

大会組織委員会が掲げたサステナビリティの目標やその達成度は、以下の通り。¹⁰⁾

- ・調達物品の再利用
ウェストミッドランド地域に永続的なコミュニティ・インパクトを与えるという共通の目標の元、大会で使用された様々な競技用備品は、ウェストミッドランド地域のボランティアグループ、学校、スポーツクラブ、コミュニティ利益会社、社会的企業など、地域に根ざした非営利の団体に寄贈される。大会後も人々が活発に活動できるよう支援する。スポーツイングランドやバーミンガム大会主催者、デジタル・文化・メディア・スポーツ省の協力により 16,000 以上の競技用備品すべてがこの活動の対象となる。
また、競技会場の 95%は既存施設であるため、大会組織委員会が行う物品・サービスなどの調達に当たっては、可能な限りレンタルやリースを活用し、シェアリングを推進した。
- ・公共交通機関の利用促進による二酸化炭素排出削減
組織委員会が行なった事前調査からの推測では、二酸化炭素排出量の 50%以上は、観客輸送によるものであり、その対策として観戦チケット保有者が公共交通機関を無料で利用できることにすることで二酸化炭素排出削減につながった。また、自転車や徒歩を積極的に利用することも強く推奨した。
- ・革新的なグリーン技術の活用
従来の発電機への依存を減らすために、一時的に電力が必要な場合は、水素化植物油燃料、蓄電池、ソーラーパネルなど、グリーン技術の活用を推進した。
- ・大気汚染への対処
2021 年にクリーンエアゾーン(イギリス政府が推進している大気環境改善計画)を導入したこともあり、今大会ではバーミンガム大学と連携し、大会期間中の空気の質を測定し、今後の大会のレガシーとする。
- ・ウォーターサーバーの設置
大会期間中、41 カ所にウォーターサーバーが設置され、無料の給水サービスを提供した。観客にはマイボトル持参を推奨し、地域資源の循環化と廃棄物削減のための取り組みの一環として行われた。
- ・会場装飾や案内掲示板
今後のイベントにも活用できる装飾や看板デザインを設計し、そのまま再利用できないものは廃棄物が最小となるような設計・調達に努めた。



会場内に設置されたウォーターサーバー

その他の大会期間中の付随イベント

コモンウェルス e スポーツチャンピオンシップス

コモンウェルスゲームズバーミンガム大会の付随イベントとして、コモンウェルス e スポーツチャンピオンシップスが試験イベントとして開催された。

将来のオリンピック正式種目への採用が検討され始めた近年、世界中で e スポーツ市場への関心が高まっており、競技人口も爆発的に増加している。年齢や性別に関係なく、障害のある人たちにも親しみやすく、オンラインで対戦できることがその一番の要因である。国際的なスポーツイベントとして、過去に「第 18 回アジア競技大会 2018 ジャカルタ(インドネシア)」において、公開競技として 5タイトルが実施された。また、来年に延期された「第 19 回アジア競技大会 2022 杭州(中国)」では、正式なメダル競技として実施されることも決定している。コモンウェルスゲームズにおいても、e スポーツ事業の推進は、イギリス政府の戦略プランに記載されている推奨事項のひとつとしてあげられているため、今回試験イベントがバーミンガム大会開催期間中に行われることとなった。コモンウェルスゲームズ連盟は 2026 年ビクトリア大会(オーストラリア)までに、e スポーツが大会の実施種目となることを目指している。

また、コモンウェルス e スポーツチャンピオンシップスに先立ち 8 月 5 日にはコモンウェルス e スポーツフォーラムが開催された。各セクターの著名人が登壇し、e スポーツの果たす役割等、幅広いテーマに関して活発な意見交換が行われた。イギリス政府からも担当大臣がパネリストとして参加し政府としてデジタル産業に積極的参入・促進していくことを表明した他、バーミンガム市を管轄するウェスト・ミッドランズ州は Global Esports Federation(GEF)と 10 年間の戦略的枠組みに合意し、複数の国際イベント招致を含め、e スポーツ産業の成長とイギリスの国際的地位を強固にする狙いがあると見られる。



e スポーツフォーラム・パネルディスカッション

【開催概要】¹¹⁾

大会名: 第 1 回コモンウェルス e スポーツチャンピオンシップス

主催: GEF とコモンウェルスゲームズ連盟

開催期間: 2022 年 8 月 6 日～7 日

参加国・地域数: 12

参加者数: 100 名以上

観客総数: 2,000 名以上

回視聴数(YouTube): 合計約 6 万回(8 月 23 日現在)

大会使用タイトル:

- ロケットリーグ(プレイヤーはジャンプや飛行が可能な「バトルカー」を操作してサッカーを行う。相手ゴールにボールを入れると 1 点を獲得し、制限時間内により多くの得点を獲得したチームの勝利となる。3 対 3 形式での対戦。)
- eFootball(e スポーツとフットボールを掛け合わせた言葉。各国の実際のクラブのプロ選手を選出し、クラブの威信をかけて実力を競い合う。1 対 1 形式での対戦。)
- Dota 2(相手チームの拠点の破壊を目指すマルチプレイヤーオンラインバトルアリーナ(MOBA)と呼ばれるジャンルのタイトル。5 対 5 形式の対戦。)



試合前・選手の紹介



ロケットリーグ・試合中

イギリス連邦スポーツ大臣会合

バーミンガム大会にあわせて、イギリス連邦のスポーツ担当大臣会合が開催され、スポーツを通じた人権の促進に向けた取り組み、選手の権利やセーフティーガードの促進、国連の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を加速させるスポーツ政策の推進、競技における透明性の向上、グッドガバナンス、インテグリティの保護・強化も呼びかけられた。また、ニュージーランドとオーストラリアが共催する FIFA 女子ワールドカップ(2023 年)、アメリカ、カナダ、メキシコが共催する FIFA ワールドカップ(2026 年)、オーストラリアで開催されるブリスベンオリンピック・パラリンピック(2032 年)など、イギリス連邦で主要なスポーツイベントを開催する際に連携し、これらのテーマや課題について議論し、効果的な対応策・解決策を検討することが確認された。¹²⁾

メジャースポーツエコノミーカンファレンス

バーミンガム大会期間中、大規模国際スポーツイベントの誘致に向け、国際スポーツ界の主要関係者や国際競技団体の幹部などを招

聘し、メジャースポーツエコノミーカンファレンスを開催した。ウェストミッドランズ州は、バーミンガム大会以降、この地域にさらなる大規模国際スポーツイベントを招致することで新たなビジネス機会の創出・拡大にもつながることを期待している。2022 年のスポーツ都市ランキングで初めて 34 位にランクインし、世界的なメジャーイベント都市としての地位を向上させるために、バーミンガム市はパートナー企業と連携し、今後 5 年以内に少なくとも 8 つの世界的なイベントの開催権を確保することを目標に掲げている。¹³⁾

参照:

1. <https://thecgf.com/>
2. <https://www.birmingham2022.com/sports>
3. <https://cricket.or.jp/about-cricket>
4. <https://squash.or.jp/>
5. <https://www.birmingham2022.com/venues>
6. <https://www.birmingham2022.com/news/2489810/birmingham-2022-will-use-multi-site-athlete-villages>
7. <https://www.birmingham.ac.uk/university/birmingham-2022/index.aspx>
8. <https://www.birmingham2022.com/news/2508477/legacy-plan-released>
9. <https://www.birmingham2022.com/news/2504282/-6m-funding-for-birmingham-commonwealth-games-cultural-festival>
10. <https://www.birmingham2022.com/about-us/our-purpose/our-legacy/sustainability/carbon-neutral-legacy>
11. <https://www.globalesports.org/>
12. <https://www.insidethegames.biz/articles/1126387/commonwealth-ministers-action-plan>
13. <https://www.expressandstar.com/news/local-hubs/birmingham/2022/08/05/event-showcases-region-as-sport-and-events-hosting-leader/>